

注意点1



ポジショニング研究 スウィープ vs スキッピング

80年代中期、コード・トーンを速く弾くためにスウィープ奏法が開発された。そんな中、ポール・ギルバートは、コード・トーンを速く滑らかに上昇＆下降するよりも、もっと自由かつリズムカルに弾きたいと考え、スキッピングを思いついたそうだ。当時一般的に広まっていたスウィープのコード・トーンの形とボールのスキッピングの形を比較してみよう(図1)。スウィープのコードトーンの形は、上昇＆下降をくり返すには最適だが、あまりにも直線的な動きのため、それ以外のフレーズに応用がしづらい。それに比べてボールのスキッピングの形はリズムカルに弾くことができるので、上昇＆下降以外のフレーズにも応用できる。研究熱心なボールだからこそ生み出すことができた素晴らしいアイデアだ。

図1 スウィープとスキッピングのポジション比較

① Eメジャー・トライアドのスウィープ・ポジション



② Eメジャー・トライアドのスキッピング・ポジション



注意点2



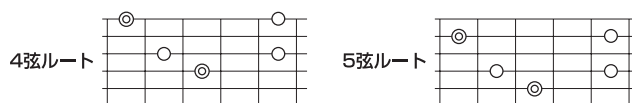
スキッピングで使われる トライアドの形を覚えよう

このフレーズは、メジャー＆マイナーのトライアドを弾く基本的なスキッピング練習で、4&5弦ルートとともにトライアドの形は同じとなっている(図2)。メジャーとマイナーの違いは、ルート音の次に弾く3度の音となっているが、形の違いもしっかりと覚えてもらいたい。ちなみに筆者は“弦が変わっても、常に小指が同じフレットを押さえるのがメジャー”、“弦が変わっても、常に人差し指が同じフレットを押さえるのがマイナー”と覚えている。続いて注意してもらいたいのは弦跳びの動作。慣れるまでは、弦跳び時の左手と右手の押弦&ピッキング・ポイントをゆっくりと確認しながら、タイミングを合わせる練習をしよう。慣れてくれば、意外と単純に感じられるので、速く弾くことができるはずだ。

図2 メジャー＆マイナー・トライアド・ポジション図

メジャー・トライアド・ポジション

◎ルート音



マイナー・トライアド・ポジション



～コラム 32～

地獄の戯れ言

終日、ギターを過激に練習していると弦を切ることはよくあるだろう。しかし、気合いを入れて弾いている時に弦が切れると、ギターを弾く気持ちが一気にさめてしまうよね。そこで、オススメしたいのが“スキッピングレス・スキッピング”練習法だ。これは、2弦が切れたら弦を張らずそのまま弦のない状態で2弦の弦跳びフレーズを練習するという。ちょっとふざけたような練習法だが、初心者でもお手軽に弦跳びフレーズのピッキングの感覚を体感することができるのだ。スキッピングは慣れることが大切なので、ビギナーはまずこの状態で練習し、慣れてきたら弦を張るようにしても良いだろう。

必殺スキッピング練習法



弦が切れた状態で練習することで、スキッピングの感覚を養うことができる。ビギナーにオススメだ。